

新たな実習船完成

男鹿海洋高 最先端技術を搭載



新たに建造され
た男鹿海洋高の
第6代眞山丸

竣工式で安
全を祈願す
る生徒



生徒がこの船で実習に励み、男鹿で学び世界に羽ばたく人材になることを期待する」とあいさつ。

生徒を代表し茂木星龍生徒

男鹿海洋高校の新たな小型実習船「第6代眞山丸」の竣工式が23日、男鹿市船川港の同校艦庫前で行われた。学校関係者や建築業者ら約20人が出席。最先端技術を搭載した実習船の誕生を祝い、水産教育の発展を祈った。

第6代眞山丸は全長19・75メートル、全幅5・5メートル、総トン数19トン、航海速度16・7ノット、定員30人。操舵室に海底地形を計測する「マルチビームソナー」を新たに導入。魚礁の把握に役立て、スマート漁業を学ぶ。船の組み力を育むことができる。

野呂田義彦校長は「先進的

な機器を導入し生徒が最先端

の技術に触れ課題解決に取り

活躍していた。(阿部拓郎)

式では最初に神事を行い、出席者が玉串をさげた。その後、学校関係者がテープカットを行った。

第6代眞山丸は刺し網漁やイカ釣り漁のほか、ダイビングや海洋観測といった実習に活用する。

初代は1977年竣工、5代目は2002年から利用され、沿岸漁業を学ぶ船として活躍していた。(阿部拓郎)